

「キンビール工場見学と 生麦事件参考館訪問」

晴天に恵まれ、参加者34名、ほぼ時間通りに京急生麦駅に集合しました。駅を後に海に向かって国道一号線を横切り、旧東海道に出ました。片道一車線の何の変哲もない無機質な狭い道ですが、ここを薩摩藩主島津久光が藩士四百余名を従えて「下に、下にい」と進んだことに、そして両側に民家が連なったこの狭い道にリチャードソン達四名が乗馬したままでいたことが吉村昭「生麦事件」に生き生きと描か



生麦事件碑で記念写真

れ、言い知れぬ感懐に浸りました。そこから旧東海道に沿って西に向かうと、ほどなく生麦事件碑に到着、約150年前に起きた「日本が近代国家として成立する発端となった事件」を偲び、記念撮影をしました。



生麦事件碑

それから生麦事件参考館館長の浅海先生の講演の予定でしたが、4月に入院手術されたこともあって、5年前の先生の講演ビデオを見ました。先生、その時80歳、額から噴き出る汗を拭い拭いしながら、立ち放しの一時間、文字通り見てきたように生麦事件の一部始終を「逃げたリチャードソンは落馬、草をむしって傷口に当て・・」と、その迫力ある話ぶりに、何とビデオを見終わった参加者から拍手が起こったほどでした。話のすべては史料・資料に裏打ちされたもので、吉村昭氏が「畏敬すべき市井の人」と評され、また参考館を訪れた方からは「嘶家のごとき語り部」と親しまれておられました。参考館には先生が集められた事件に関する古文書、錦絵、日記、写真、英字新聞、古地図、事件報告書などが所狭しと展示されていましたが、先生もご高齢で、本年には閉館して地方公共団体への寄贈を検討されておられる由、ただただ散逸されないことを祈るのみです。



生麦事件参考館前でスナップ



キリンビール横浜工場中庭で集合写真

参考館から再び国道一号を横切ると、目の前にキリンビールの近代的な横浜工場が姿を現しました。お昼は工場に併設されたモダンなレストランで松花堂弁当を手頃なお値段で、まずまずのお味でした。工場といっても建物周辺は庭園風に手入れされ花も多く、沢山の見学者が散策されていました。工場見学は我々の団体を一括りにして、案内嬢の美しい声に誘導されて説明に聞き入りました。ビールの三大原料である麦芽、ホップ、水を厳選されている由、麦芽を実際に噛み、ホップを割った臭いをかいだりして、皆様早くも試飲に思いを馳せておられました。そこから窓越しに巨大な仕込釜が10個ほどみることができ、製麦、仕込、発酵の製造工程が行われているとのことでした。その後環境対策そして酒税対策としての新ビールの開発の説明がありました。ただ工事のため最後の瓶詰や箱詰の工程が見れなかったのは残念でしたが、最後の皆様お待ちかねの缶ビールを試飲させて頂き、さらに缶ビールの美味しい注ぎ方の実演もあり、予定の1時間少しが大変短く感じられました。



中庭散策



超大ビンから注ぐ・・・



ビール製造の説明を聞く

皆様、やや顔を赤らめながら生麦駅に向い、また駅前の居酒屋での恒例の二次会には半数を超える18名の参加を頂きました。試飲したから酒代は少なくて済むと思った幹事の思惑は大いに外れ、談論風発、かえって酒量が増え、大いに楽しむことができました。皆様のご協力どうも有り難うございました。

コメントは無用ですね！！ 皆さん・・・楽しんでますね * □ ☆ △



HP作成 文章 中井 順一
写真 木村 一雄
編集 富山 友次